栃木県立足利南高等学校

所在地　〒326-0334　足利市下渋垂町980
電　　話　0284-72-3118
ＦＡＸ　0284-73-2772
ＵＲＬ　http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikagaminami/nc2/
創　　立　昭和51年
課　　程　全日制課程
設置学科　総合学科(平成12年より)
生 徒 数　458名(男子124名 女子334名)
　　(令和３(2021)年５月１日現在)
利用交通機関　東武伊勢崎線　県駅から徒歩7分

Ⅰ 学校の概要

足利市の郊外、「県野」の地に位置する本校は、広大な田園地帯の中にあります。市内唯一の公立普通科男女共学の大規模校としてスタートしました。本年度創立46年目を迎え、１万名を超える卒業生は、地元企業をはじめ各方面で活躍しています。本校ではもともと進路や興味関心の多様な生徒が多く、生徒のニーズに応えるため、平成12年度より県南初の総合学科に転科しました。そのことにより、生徒一人ひとりの個性や進路に応じた、よりきめ細かい指導が可能になりました。

本校は単位制で、生徒の個性、自主性、主体性を大切にする学校です。

１　学校教育目標

健全な精神と身体をもち、自己の能力と適性とを積極的に開発するように努め、誠実に人生を生き、社会の進展に寄与できる人間を育成する。

校訓：聡く・寛く・健やかに

２　目指す学校像

一人一人の豊かな個性をのばし進路に対応するために、総合学科の特色を十分に生かした学校教育活動を推進し、すべての教育活動の中で次のような生徒を育成することを目指す。

○主体的に学習を深めることのできる生徒
○社会の変化に適切に対応できる生徒
○共生の心をもち、国際感覚の豊かな生徒
○芸術文化やスポーツに親しみ、感性豊かで健やかな生徒
○地域や社会に貢献できる生徒

３　募集する生徒像

本校の教育目標と目指す学校像を理解し、基本的な生活習慣が身に付いており、次の（１）から（３）までのいずれかに該当する生徒

（１）学習活動に真面目に取り組み、進路実現に向けて努力する生徒
（２）自己の得意分野を積極的に伸ばそうとする生徒
（３）部活動・生徒会活動やボランティア活動等に積極的かつ継続的に取り組む生徒

Ⅱ 学科、教育課程等の特色

１　系列と選択科目

本校では学びの場である５つの系列が設定されています。①人文社会系列(国・英・社の分野)、②自然科学系列(理・数の分野)、③情報メディア系列(情報の分野)、④生活デザイン系列(家庭科の分野)、⑤芸術・スポーツ系列(芸術・体育いずれかの分野）です。本校では1年次に基礎科目を学んだ後、この系列を目安に、たくさんの科目の中から自分の進路や興味関心に応じた科目が選択でき、一人ひとりがオリジナルの時間割を作ることができます。「演劇」や「伝統文化」のようなユニークな選択科目がある一方、特定の分野の科目を多く選択することで、受験に必要な教科を集中して学ぶこともでき、効果的に学習できます。

2　特色ある進路行事

各分野の大学・短大・専門学校等を訪問し、施設見学・授業体験などを行う「スクールインターンシップ」という行事をはじめ、体験学習の機会が多くあります。また、各学年で適切な時期に「進路ガイダンス」の時間を設け、各分野の専門家による進路実現のためのアドバイスを受けます。

3　「産業社会と人間」と「課題研究」

１年次に全ての生徒が学ぶ「産業社会と人間」という科目があります。この科目では、適性検査や基礎学力検査なども用いた自己理解から始め、職業研究、講話、「スクールインターンシップ」、「進路ガイダンス」等を通して、将来について深く調べ考えていきます。その過程で得たものは時間割作成にも反映させます。年度末には全員のライフプランを冊子にまとめ、「総合学科発表会」の中で代表者が発表します。

「課題研究」は問題解決能力やプレゼンテーション能力を高めていく科目です。３年次に自分でテーマ設定をし、調査・研究をし、年度末には冊子にまとめ、「総合学科発表会」の中で系列ごとに選ばれた代表者が研究成果を発表します。その準備段階として、２年次にはミニ課題研究ともいえる研究を実施し、テーマ設定の仕方、研究の仕方を学んでいきます。

3　検定試験

生徒のニーズに応じて次のような検定試験が用意されています。進路実現の大きな武器にすべく、多くの生徒が受験しています。

日本漢字能力検定　実用数学技能検定　実用英語技能検定　P検　ビジネス文書実務検定
被服製作技術検定　食物調理技術検定

4　きめ細かな学習指導

生徒一人一人の学習到達度の応じた指導をするために多くの科目で少人数制を実施し、きめ細やかな指導がなされています。本校は単位制ですが、年次別にクラスを編成しています。

Ⅲ 進路状況

本校では各系列で学び、研究したことを生かし、あらゆる分野への進路を実現しています。主な進路先は次の通りです。(過去3年間)

[大学]
帝京大、文教大、白鴎大、高崎健康福祉大、立正大、桐生大、足利大、上武大、関東学園大、東京福祉大、群馬医療福祉大、東京国際大、平成国際大、共栄大、共愛学園前橋国際大、ものつくり大、拓殖大、日本大、埼玉学園大、日本保健医療大、駿河台大、聖徳大、日本工業大

[短大]
佐野日本大学短大、足利短大、國學院大学栃木短大、桐生大学短期大学部、高崎商科大短大部、育英短大、聖徳短大、埼玉純真短大

[専門]
栃木県立衛生福祉大学校、栃木県県南高等看護専門学院、館林高等看護学院、太田高等看護学院、東群馬高等看護専門学校、マロニエ医療福祉専門学校、国際ティビィシィ小山看護専門学校、足利デザイン×ビューティ専門学校、足利製菓専門学校、太田情報商科専門学校、太田医療技術専門学校、国際テクニカルデザイン・自動車専門学校、国際TBC調理・パティシエ専門学校、大泉保育福祉専門学校、日本外国語専門学校、東京スクールオブミュージック＆ダンス専門学校、群馬県立太田産業技術専門学校、ベルエポック専門学校大宮ビューティー＆ブライダル専門学校、資生堂美容技術専門学校

[就職]
アキレス㈱、吉田プラ工業㈱、竹内産業㈱、阪和工材㈱、㈱ミツバ、SUBARU㈱、わたなべ整形外科、足利電装㈱、吉田テクノワークス㈱、シミックCMO（株）、両毛丸善㈱、ニプロ医工㈱、オグラ金属、東京食品産業、ヤオコー、とりせん、太平洋ゴルフサービス、ヤマトエスロン、あわしま堂、遠藤食品、陸上自衛隊

Ⅳ 特別活動等の紹介

1　主な学校行事

スポーツデイ（クラス対抗球技大会６・12月）、青南祭（隔年９月）、体育祭（隔年６月）、マラソン大会（11月）、芸術鑑賞会（12月）、総合学科発表会（１月）、予餞会（２月）

2　国際交流

国際理解教育の推進校である本校は、平成19年度から、オーストラリアのホークスベリー高校と姉妹校提携を結び、現在まで相互に短期の留学生を派遣し、交流が続いています。また、昭和57年から始めた東京インドネシア共和国学校との文化交流は、本校のユニークな伝統行事になっています。この他、留学生も受け入れており、自然に国際交流のできる環境が整っています。

3　部活動

現在次のような部が活動しており、女子バスケットボール部やテニス部をはじめ、多くの部が各大会で上位を狙って活躍しています。ウエイトリフティング部は毎年全国大会に出場しており、国体で準優勝、テニス部女子は、関東大会に出場しています。

[文化部]
文芸、吹奏楽、生物、ICE（国際文化交流）、
美術、写真、演劇、天文気象、茶華道、
フォーク
［運動部］
バレーボール、バスケットボール、野球、サッカー、
バドミントン、テニス、剣道、柔道、陸上競技、水泳、
ウエイトリフティング

Ⅴ 特色選抜について

1　定員の割合

総合学科　30％程度

2　出願するための資格要件

基本的な生活習慣及び高等学校で学ぶにふさわしい基礎学力が身に付いており、次の（1）から（3）までのいずれかに該当する者

（1）本校の設置する各系列（人文社会・自然科学・情報メディア・芸術スポーツ・生活デザイン）のいずれかに興味・関心をもち、入学後学習に意欲的に取り組む熱意のある者

（2）中学校時代、部活動・生徒会活動等に貢献し、本校入学後も学習と両立させながら、これらの活動を継続し、活躍できる者

（3）国際理解教育に興味・関心をもち、入学後国際交流活動に積極的に参加する意志のある者

3　選抜の方法

選抜方法	内　　容
面　　接	個人面接　時間10分程度
作　　文	時間40分　字数400 ～ 500字

4　その他、特記事項

なし

5　選抜の手順等

【資料の取扱い】

1　志願理由書は、調査書とともに、資格要件の確認及び面接時の参考資料として用いる。

2　調査書は、「各教科の学習の記録」（第1学年～第3学年）の評定（選択教科を除く）を合計する。（135点満点）

また、調査書の点数化されない部分については、資格要件に該当するものを評価する。

3　面接及び作文は、段階評価を行う。

【選抜の手順】

次の各段階に該当する受検者について順に、調査書の点数化されない部分の内容を考慮して総合的に選抜する。

第１次審議

【資料の取扱い】の２で点数化した部分の合計点数の順位が、特色選抜の募集定員の70％以内にある者（ただし、受検者が定員に満たない場合は受検者の70％以内にある者）で、面接の評価が優秀・優良であり、かつ、作文の評価が良好である者を合格内定とする。

第２次審議

第１次審議で合格内定となった者を除いた受検者のうち、特に資格要件に該当する事項が顕著であると認められ、面接または作文の評価が良好である者を合格内定とする。

第３次審議

第1次審議及び第2次審議で合格内定となった者を除いた全ての受検者について、全ての検査結果を総合的に判断して、合格内定者を選抜する。